

めでいかすとる
Médicastre



「 月山高原のひまわり畑 」

鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：令和元年8月6日(火) 19：00～
場所：鶴岡地区医師会館 3階講堂

『わが国における悪性腫瘍と心不全』

久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科部門
主任教授 福本 義弘 先生

近年の心血管病に対する治療の進歩に伴い、急性心筋梗塞を含めた心血管病患者の予後が改善してきている一方で、わが国では著しい高齢化とともに、種々の心血管病を基礎疾患とする心不全患者が激増し、「心不全パンデミック」が現実のものとなってきている。また心血管病サバイバーが増えるとともに、高齢化に伴い、「悪性腫瘍」などの併存疾患も増加している。すなわち、医療の進歩に伴い、基礎疾患を有する高齢心不全患者が増加し、これらの患者群が「悪性腫瘍」を併発するという現状が存在している。

一方、外科治療および、分子標的薬を含むがん化学療法の進歩により、がん患者の生命予後も目覚ましく改善してきているが、「がん治療関連心機能障害 (CTRCD)」と呼ばれるがん化学療法に伴う心不全も増加傾向にある。がん化学療法によって生じる心血管イベント（心毒性、不整脈、血栓塞栓症など）や腎障害は、最も重大な副作用の一つであり、生命予後への影響が懸念される場所である。さらにこれらの副作用により、日常診療においてがん治療自体の継続が困難となることも少なくない。高齢化が進んだリアルワールドにおける心・腎血管イベントへのデータはほとんどなく、化学療法施行後早期の合併症だけでなく、晩発性に生じる心血管リスクも指摘されており、長期のフォローアップの必要性も指摘されている。がん患者の高齢化による循環器疾患合併患者の増加や分子標的薬を含む新規抗がん剤の登場なども相

まって、その心血管イベントや腎障害の予知や予防、早期治療介入の重要性が増し、がん診療医と循環器内科医、腎臓内科医の連携、つまり Onco-cardiology、Onco-nephrology という領域が注目されるようになった。このような状況を鑑み、我々は、がん化学療法施行患者を前向きに調査することで、当院における心血管イベント、腎障害の発生状況を把握し、早期発見早期治療につながると考え、前向き観察研究を開始した。

今後、がん治療医と循環器内科医が協働して治療に当たる症例がますます増えていくこととなるが、どのように包括的治療を行うかが、今後の重要課題の一つである。各疾患の発症・進展予防、急性期および慢性期治療、あるいは高度先進医療、さらには緩和ケアから終末期医療まで、幅広い全人的な治療が必要となるため、それぞれの地域において、大学病院、地域中核病院、市中病院、診療所が連携して治療を行う必要がある。特に、高齢患者は併存症や社会的な背景が複雑であり、疾患の増悪により緊急入院すると在院日数が長くなる上、フレイルや独居あるいは老々介護などの問題も多く、入院前の生活環境に戻ることができなくなる場合が多く、効果的な地域連携を行うことが必要である。本講演では、このような時代背景を基に、それぞれの専門分野の立場から、いかに診断・治療を行っていくべきか、いかに良い方向に進むべきか、をご議論いただく機会にできればと考えている。

鶴岡准看護学院オープンキャンパス

日時：令和元年8月1日(木)・2日(金) 10:00～12:00
場所：鶴岡准看護学院

平成26年からスタートしたオープンキャンパスも今年で6回目の開催となりました。今年度は医師会会員の皆さまからも、学生募集のポスターの掲示にご協力いただきありがとうございました。昨年より参加者が多く、2日間で34名（高校生11名、社会人15名、保護者8名）の参加がありました。

鶴岡・酒田地区だけでなく村山・置賜地方、県外など遠方からの参加もあり、高校生は保護者同伴の姿が多くありました。最初に学院の概要やカリキュラム、学校生活に関する説明を行いました。熱心にメモをとる様子が見られ、関心の高さがうかがえました。休憩後、学院内の施設見学と学内実習の見学・体験を行いました。在校生に血圧測定をしてもらい、一緒に沐浴・授乳体験も行いました。笑顔を見せながら楽しそうに体験していました。

在校生とのフリートークの時間では、学校生活や実習について質問する場面もあり、グループ内で和やかに交流する様子が見られました。

終了後に行なったアンケート結果では当学院への入学を希望している参加者が多くいました。感想の中には「在校生の話聞きとても充実していることがわかった」「学校の雰囲気も良く、実習体験など楽しく体験できた」「働きながら学校に通う方のお話が聞けて良かった」等の感想が多く、中には娘と一緒に受験したいと話す保護者の方もいるなど、学院を知って頂く貴重な機会になったと思います。

10月12日(土)も開催を予定しています。来年度、62回生として入学することを期待するとともに、今後も充実した内容の開催に努めていきたいと思ひます。

教務課 川井 マリ





第28回 医師会納涼ビアパーティー

日時：令和元年8月2日(金) 19:00～
場所：グランドエル・サン

8月2日(金)、医師会納涼ビアパーティーをグランドエル・サンにて開催いたしました。今回で28回目を迎え、会員・職員を合わせ285名より参加いただきました。

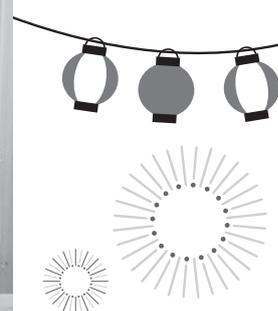
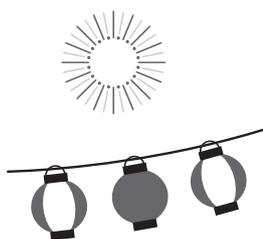
三浦道治先生の開会のあいさつを始めに、土田兼史会長のあいさつ、中目哲平先生の乾杯のご発声で宴が始まりました。恒例の新人余興では健康管理センター・医師会館、みずばしょう、湯田川温泉リハビリテーション病院の順に行われ、仕事の合間を縫って練習した成果を発揮し、会場を大いに盛り上げてくれました。大抽選会では、『赤川花火大会の栞席チケット』を始めに、豪華賞品の当選に名前が読み上げられると、そのたびに大きな歓声があがっていました。

最後に福原晶子副会長より閉会のあいさつをいただき、万歳三唱にて閉会となりました。

医師会ビアパーティーは、会員・職員の誰もが参加できる唯一の会です。来年もなるべくたくさんの方々にご出席いただき、おいしいお酒と料理とともに交流を深める場になればと思います。

実行委員長 橘 慎太郎





医師会納涼ビアパーティーに初めて参加させて頂きました。みずばしょうの新人職員はドラマ「今日から俺は！」のオープニングで使われていた「男の勲章」のダンスを披露させて頂きました。

メンバーが5人と少なく、初めは不安しかありませんでした。しかし、先輩達からたくさん声を掛けて頂き、又アドバイスを頂く中で少人数でも盛り上がるよう、みんなで意見を出しあい決める事が出来ました。練習は、終業後や休日に時間を合わせ、分からない振り付けはその都度確認し話し合いを行ないました。日が経つにつれ「絶対に成功させよう」という気持ちが強くなっていき、メンバー全員がひとつになれたと思います。

私達は、ビアパーティーの前にみずばしょう夏祭りでも余興の機会を頂きました。夏祭りでは、初披露ということもあり終始緊張しましたが、一生懸命踊る事が出来たと思います。新人余興以外にも、太鼓やサックス演奏もあり利用者の方々をはじめご家族様も楽しんで頂けたと思います。

ビアパーティー前に一度合わせる事ができた為、最終確認もする事が出来ました。本番前に円陣を組み、気合を入れてステージに行くと、みずばしょうの先輩方がステージ前に集まり盛り上げて下さったので、最後まで楽しんでダンスを踊る事が出来たと思います。

ビアパーティーを通し、他部署の方々とたくさん交流を図る事ができ、大変うれしく思いました。これからも新人一同精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

最後になりますが、このような素晴らしいビアパーティーを企画・運営して下さいました実行委員の皆様ありがとうございました。

介護老人保健施設みずばしょう
療養課 鈴木 千帆

YBCラジオ「ドクターアドバイスで きょうも元気」ラジオ出演体験記

鶴岡協立病院 市川 誠一

去る7月6日に2年間肺癌闘病をしていた弟を亡くしました。収録準備など出来るはずもなく、通夜、葬儀を終え鶴岡に戻り7月17日の収録に向けて、慌しく初七日の7月13日から準備を開始しました。

今回の出演に際し偶然と言うにはあまりに運命的だったのは、YBC（山形放送）毎週土曜日昼帯の「オーレオーレ！」で7月13日放送のテーマがなんと「あなたが、もし『ドクターアドバイスで今日も元気』に出演するならどんな曲を流しますか？」だった事です。この日、私はまさにラジオを聴きながら、一所懸命に収録準備をしていました。選曲についても甥、姪、弟嫁に、弟はどんな曲を聴いていたのかを尋ねたりしていたところでした。悪戯好きな亡き弟か神様の仕業かと思いました。思わず番組に「今、収録準備中です。」とメッセージとリクエストをしますとパーソナリティの奥山知寿子さんに「本物のドクターからメッセージを戴きました！」と放送中何度も取り上げて戴き、収録や選曲についてのアドバイスを頂戴しました。そしてリクエスト曲「優しいあの子」が流れたのは弟が亡くなった時刻でした……。



収録当日はディレクター加藤研さん、アナウンサー佐藤幸子さんの優しく的確な誘導で作業は進みました。「オーレオーレ！」の不思議なエピソードは御二方とも既にご存知であり、この話題も収録に盛り込まれることとなりました。

今回は、「心不全パンデミックに挑む！」というテーマで、現在爆発的に増加している拡張不全を主体とした高齢者心不全についての最先端をお話ししたつもりですが、鶴岡の現状など話し足りない事がまだまだ沢山ある感じがしました。

貴重で得難い楽しい経験をさせて戴きました。次の機会があればもっと上手くやりたいと思いました。

マイペット&マイホビー

— 第 106 回 —

よしなしこと

わかな内科医院 松浦 優

年を重ねていつかはおだやかな気持で“つれづれなるままに 日くらし硯にむかひて 心にうつりゆくよしなしことを……”

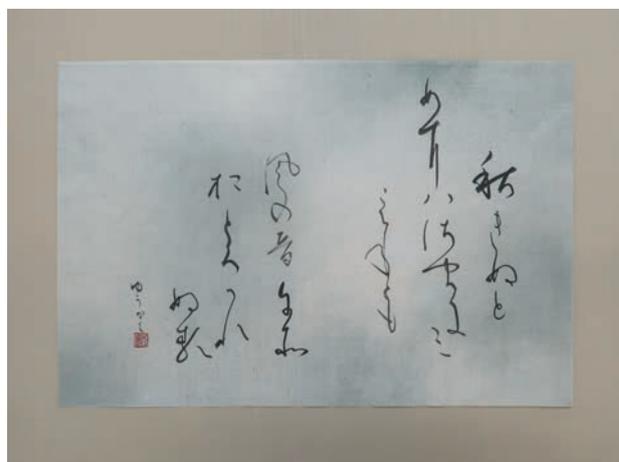
という心境に達したい願いとは裏腹に16年共に暮らした愛猫との別れ、一昨年末から職員不足などの心労が重なり慢性的疲労が昂じてうつうつとした気分不調、虚無感が続き、自身に嫌気がさしていた8月、もう二度と迎えることはない卒寿記念に今ある自分の姿を写真におさめてみたい衝動にかられ、猛暑の最中、浅葱色単衣に着替え一步外へ出た瞬間、汗だくの顔にふぁーとなでるような優しい風があたり“あっ、これは。どこかで”いいしれぬ懐かしさを感じながら写真館へ。コチコチの私をリラックスさせようとモデルさながらのポーズをとっている間に硬わった表情はやわらぎ、思わず涙一筋を流していた。これは自分へのだめ出し、認知行動を見直し、いろいろ考えを経ずに直接心中に起る気持を素直に身体活動で表現したことが、抑圧から解放されたのかなど。なつかしさを感じた風は立秋の日に詠んだとされる

秋来ぬと目にはさやかに見えねども

風の音にぞ おどろかれぬる

40代の頃より座右の銘にしている和歌を思い出し、一気に筆をとり色紙に書いてみた。筆勢は弱いもの手ぶれせず書けたことは自分へのプレゼントと思っている。

この短歌は誰にでも理解しやすく「目には」視覚をとりあげ、「風の音にぞ」聴覚上の印象をとりあげて、目には見えないものによって自然にはっと気が付いて、季節の到来を知るという繊細な感覚が示されており、われわれ医の道を志すものにとって基本的な教訓が示されている。秋は和歌で「飽き」にかけて用いられ、十分満ちたりるの意もあるとの由。又あかずの形で方丈記に魚（いを）は水に飽かずと記述され



ていることもあり、心の持ち方一つで生活にうるおいが生まれ、私は長年この和歌を心身面でも愛用している。微力ながら長き年月に亘って医療の世界に名を連ねていられるのは、私の幼少期に遭遇した貴重な体験だろうと思っている。

大変古い話して恐縮ですが、私が3才9ヶ月目の昭和18年に腹痛と嘔吐を訴えて近医の往診をうけ「くだまり」といわれ温罨法となった翌日、腹部の異常な膨隆と高熱にうかさね仮死状態に至り、旧荘内病院へと運ばれるも廊下に放置され、数時間後、総婦長の「まだ生きている」と叫び声で手術に踏み切ったのだと。術中この幼児おそるべし無影燈をしっかりと目に焼きつけており、あらん限りの生命力をもって生き返り、今に至っている。しかし、小学校入学まで手術痕が大きく膿汁分泌、縫合不全で3回入院しており、長年下腹部の圧痛は常にある。

当然ながら近代の先端医療環境とは同じ組上にのせる問題ではないのだが、初期診療はどのような環境におかれようとも診察時は視診、聴診、触診が基本的であり、緩急要をわきまえることを肝に銘ずべきものと訴える。同じ轍を踏むことがないように、私は使命を託されていると命の底から思っており、これぞ他の人にはない強みと思っている。

Introduction 研修医

鶴岡での生活

鶴岡市立荘内病院研修医 福元 拓郎

臨床現場で働いて1年半経ちました。色々な科を研修できるように1つの科に対し1ヵ月～2ヵ月の期間で研修を組んでいますが、2年の期間では全部回りきることはとてもできず、初期研修が3年あればいいのに！と思うほど医療の領域は広いと実感しています。私は大分県から縁あって荘内病院にきましたが、もう一度学生をやり直せたとしても初期研修は荘内病院を選びたいと思うくらい大好きな病院です。優しい先生方やスタッフの皆様、頼れる研修医仲間に囲まれて充実しています。鶴岡の美味しいお店もたくさん行きました。残りの期間でさらに開拓していきたいです。

さて話は変わりまして、2年目になった頃からABCDEアプローチがようやく身体になじむようになりました。もちろん学生の頃から知っていましたが、研修1年目の頃も意識していましたが、急性期の患者さんに異常があった場合どう対応すればよいか、身体に染み付き始めてくれた気がします。基本的な手技も自分でする機会が多く以前できなかったこともできるようになり、医療現場で働くやりがいを感じています。これからも患者さんのために勉強！勉強！勉強！頑張ります。

表 紙

「月山高原のひまわり畑」

真島 吉也

庄内の食文化の一端を担う広大な月山高原農産地帯には有志の方々の熱意に支えられたひまわり畑が点在します。8月の旧盆のころに次々と満開となり大勢の訪問客で賑わいます。その一部は秋になるとコスモス畑に変貌し、秋の情緒を楽しむドライブに彩を添えてくれます。

編 集 後 記

少しずつ涼しい時間帯が増え、暑い夏もそろそろ終わりそうな感がありますが、皆様体調管理はいかがですか？

さて、令和初、第101回夏の甲子園が終わりましたが、地元である鶴岡東高校、大健闘だったと思います。初戦の高松商業戦は相手好投手からの鮮やかな逆転勝利！2回戦の習志野高校戦、相手は春の選抜大会で準優勝しており強豪でしたが、2回表に大量5点リードし、最終的に9対5で勝利！ベスト8を目指した3回戦は関東一高戦、まさに手に汗にぎる好ゲーム（実際本当に手足に汗をかきました）。その日は赤川の花火大会の日でもあったのですが、自宅で花火の音を耳で体感しながら、祝砲の花火となれ！と念じ野球観戦に集中していました。6対4で7回までリードしていた時はベスト8が頭によぎりましたが、相手も粘りがあり6対6の同点となり延長戦に突入。最終的にはサヨナラ負けを喫し、祝砲の花火とはなりませんでしたが、試合後の選手達の全力を出し切った表情はとても感慨深いものでした。

さて、これまで東北勢は雪国のせいなのか野球で勝てないイメージが払拭できませんでした。しかし最近の傾向からはそのようなことはなく、地域差はなくなってきています。むしろ雪上でのトレーニングにより筋力アップが期待でき、大きなハンディキャップにはならないように思われます。東北勢、初の優勝旗も近いような気がします。来年もまた期待しています。

(中目 哲平)

編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](http://www.tsuruoka-med.jp)  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>